

様式1(主な取組)

活動指標名	県内工業用水給水能力				R3年度			R3年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
	30,000m ³ /日	30,000m ³ /日	30,000m ³ /日	30,000m ³ /日	30,000m ³ /日	30,000m ³ /日	100.0%	56,785	順調	東系列導水路トンネル改築工事、配水管整備を実施した。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										R3年度の県内工業用水の給水能力は、30,000m ³ /日と計画値を達成しており、取組は順調である。 老朽化した工業用水道施設の計画的な更新あ耐震化を推進することで、低廉な工業用水を安定的に供給することができる。
活動指標名					R3年度					
実績値	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	実績値(A)	目標値(B)	達成割合 A/B			
(2) これまでの改善案の反映状況										
令和3年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> R2年度は東系列導水路トンネル改築工事を行っており、引き続き水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)の手法を活用して、東系列導水路トンネル改築工事などを計画的に行う。 						<ul style="list-style-type: none"> アセットマネジメント(資産管理)の手法を活用した上で老朽化施設の計画的な更新に取り組むとともに、施設の保全、点検を適切に行うことで施設の状態を把握し、優先順位をつけて施設整備計画に反映させた。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 本土復帰後に建設が進められた工業用水道施設の経年化が進み、今後大量に更新時期を迎えるため、優先順位をつけて改築を進める必要がある。

○外部環境の変化

・ 島嶼県である本県において工業用水道施設が地震等により被災した場合、他府県からの支援等が困難なため、広範囲かつ長期にわたって断水が危惧されることから、災害に強い工業用水道施設の視点から施設の耐震化を推進していく必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 基幹施設である東系列導水路トンネル、久志浄水場、久志～石川送水管の改築は、期間を要することから、計画的な工事の執行に努める。

4 取組の改善案 (Action)

・ R3年度は東系列導水路トンネル改築工事、工業用水配水管の更新を行っており、引き続き水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)の手法を活用して、東系列導水路トンネル改築工事などを計画的に行う。